

食料・エネルギーの「地産国消」に貢献する

社会情勢の大きな変化、SDGsの潮流の中で、建設業界では「新4K」や「ESG」の取組が焦眉の急となっており、地域課題の解決、社会貢献の観点が必要視されつつある。このため、会員各社が関係機関との連携・協力を図りながら行っている食料・エネルギーの「地産国消」の取組を紹介し、地域、社会貢献に関する行政とのパートナーシップの深化を図る。

vol.10

地域に密着し地産国消に貢献する

東急建設株式会社 九州支店 廣瀬 裕一

東急建設株式会社九州支店では、弊社単独あるいは

東急グループ各社と協力しながら、福岡市の油山市民の森の草刈り清掃活動、海の中道の植樹や海岸清掃活動、熊本市での児童養護施設の児童を招いての映画観賞会開催などさまざまな地域貢献活動を実施している。

農業分野においては、弊社単独で旧玉名干拓施設（国指定重要文化財）の草刈活動に過年度から継続して参加しているが、令和四年度から地域に一歩足を踏み入れ地域農業の課題に則した活動をスタートさせた。

一つは、熊本市のミカン産地の収穫作業の継続的な支援活動、もう一つは、南阿蘇村で開催した熊本地震復興祈念イベントでの地域農産物のPR販売活動である。本稿において、この二つを地域に密着した地産国消の事例として紹介したい。

熊本市のミカン産地の収穫作業の継続的な支援

(1) 地域の概要

熊本市の西に金峰山^{きんぽうさん}という山がある。その山肌に沿って通称金峰オレンジ街道と呼ばれる広域農道が走っている。農道から一つ逸れると、車一台がやっと通れるくらいの細い道が急斜面をスイッチバックするかにようにジグザグに巡っている。

一帯は河内^{かわち}と呼ばれ、有明海に面して斜面が開け、手積みの美しい石積

の段々畑が広がっている。排水が良好で、

かつ太陽の光に加えて有明海からの反射光が注ぐ条件下で古

くから温州ミカンが盛んに栽培されてい



ミカン産地の位置

る。樹園地に足を踏み入れると、五月の連休明けには一面にミカンの白い花が咲き誇り、辺りに広がるその甘く華やかな香りに心癒される。それが、秋の収穫期になると、今度は白から果実の黄色に変化する。それほどこの地域では、ミカンが多く栽培されている。

一説によると、この地域のミカン栽培は約二〇〇年前に、時の領主が栽培を推奨したのが始まりとされ、昭和三十年代に開園のピークを迎え、現在のミカン団地を形成したと言われている。

(2) 高機能選果場の整備と残された課題

熊本県のミカンの生産量は、近年、全国の一割以上のシェアを占め全国第四位を誇っており、この地域のミカンは「河内のみかん」として全国的にも名を馳せている。

国産の需要が多い中、JA熊本市では、

平成十二年に四箇所に分散していた選果

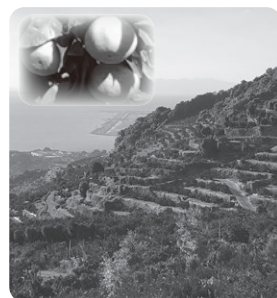
場を一カ所に統合、さらに平成二十二年

には光センサー非破壊選別システムを導入、皮を剥くことな

く一個々のミカンの酸度や糖度の測定が



統合され最新の選果設備を備えた集荷場



有明海に面して開ける石積の段々畑

可能な設備を備え、消費者からより信頼されるブランドに前進している。また、出荷先毎のトラックに自動で積み込むシステムを導入し、物流の効率化も図られている。

一方で、課題に目を向けてみると、急峻な地形のため河川水が乏しく重要な防除水の確保が難しいこと、急傾斜の段々畑であるがゆえに、剪定・防除・施肥などの管理作業や収穫作業が非常に重労働になることが上げられる。加えて、後継者不足、農家の高齢化という全国共通の課題を抱えている。

また、ミカンと比較的貯蔵が効く果物でありながら、生食用としては収穫時期を逃せないという特徴を持っている。収穫が遅れると皮浮きが発生して品質が低下し、ジュースの原料行きとなってしまう。

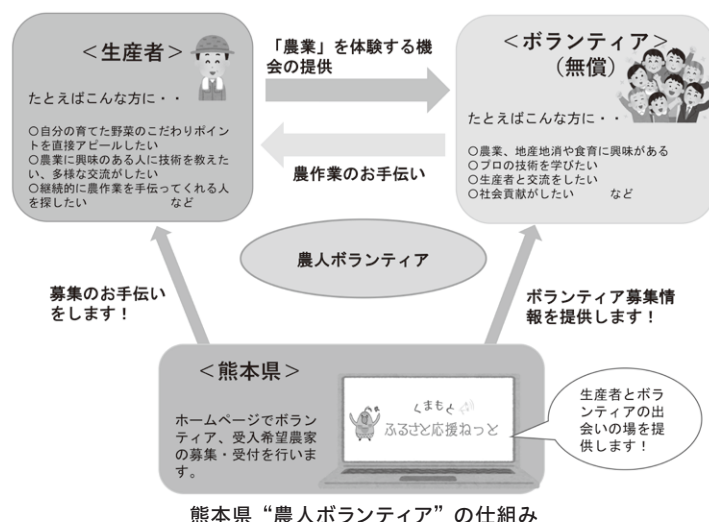
このような課題がある中で、弊社では、歴史ある貴重な産地を維持し、消費を下支えする支援はできないものかという思いで、令和四年度から収穫作業の支援をスタートさせた。

(3) 支援を必要とする農家との縁組（熊本県「農人ボランティア」）

支援を必要としている農家はいると分かっているが、地域との接点が乏しい弊社では農家を見つめるのが難しかった。そこで、目に留まったのが、熊本県が行っている「農人ボランティア」の仕組みであった。

「農人ボランティア」は、農家の高齢化や後継者不足対策の一つとして、熊本県が令和二年度からスタートさせた仕組みである。

手伝いを必要としている農家と農業ボランティアに興味のある人や団体、その両者がそれぞれ県に登



録しておくことで、県が条件のマッチする者同士を結びつけてくれる。マッチングが成立したら県から受入農家が紹介され、その後は当事者間で作業内容、準備する物などの詳細な確認を行い支援実施に至る。

参考までに、この「農人ボランティア」は、県のホームページのほか、熊本の民放（テレビくまもとの「GO!くまもん☆ナビ」でも紹介され、現在、放映内容がYouTubeにもアップされている。

(4) ミカン収穫支援の実施

直近では、平成六年十二月に社員六名が参加し収穫作業を支援した。受入農家は、約2haの歴代のミ



収穫作業



休憩時間は農家との貴重な意見交換の時



段差のある石垣間を人力で小運搬



予定エリアの収穫を終え安堵の農家と社員

カン専業農家で、労働力は六十代の夫婦の二人のみであった。終日かけて、コンテナ箱約一〇〇ケースの収穫を行った。

運搬用のモノレールは無く、残念ながら人力に頼るほかなかった。収穫ミカンのコンテナ箱は二〇kgを超える。高低差のある石垣を上段へと繰り返し人力で小運搬しトラックに積み込む作業は想像を絶する重労働であった。長い歴史を繋いできた農家の苦労に頭が下がる思いがした。

また、収穫には、熟練と言わないまでも多少の要領が必要だった。ヘタ部分は、一度枝から切りとり、手元で確認しながら再び短く切り直すよう指導され

た。手間だが、ヘタの未処理が原因で運搬時に他のミカンの皮を傷つけ、そこから雑菌が浸入し保存中に腐ることであった。

(5) 支援の成果

休憩も昼食もミカン園で受入農家と一緒にとった。話が弾み、栽培管理の大変さ、後継者問題、地域の農業の問題などの話題で盛り上がった。交流が深まったことで、生産者への理解や食への関心が高まり、継続的な支援活動として定着したことが一番の成果であった。

さらに、この活動の情報を熊本県内の東急グループ各社にも共有したところ、グループ会社としての支援に拡大したことも非常に意義深かった。

他方、農家にとっては、アルバイトの確保が難しく、収穫適期も限られる中での支援は非常に助かった、と感謝された。

地域農業が抱える課題の抜本的な解決にはならないにしても、産地を支える一助になったと確信しており、今後の支援の広がり期待している。

熊本地震復興祈念イベントでの 地域農産物の販売

(1) 南阿蘇村の熊本地震被害

平成二十八年四月十四日、熊本地方でマグニチュード六・五の地震が発生、さらに、十六日にはマグニチュード七・三の本震が襲い最大震度七を記録した。南阿蘇村（以下「村」という。）では、強い揺れとともに大規模な斜面崩壊が村の各所を襲った。崩壊土砂は、大動脈の国道五七号線を寸断し阿

蘇大橋を飲み込み、河陽地区では住宅団地を襲い多数の死傷者を出した。被害は、村全体で三十一名の尊い命が失われ、家屋被害は半壊以上が一六〇〇棟を超えた。交通インフラ被害、ライフライン被害、農地や農業用施設への被害も甚大であったことは想像に容易い。主要な産業である観光業にも大きな打撃を与えた。

(2) 熊本地震復興イベントを開催

阿蘇大橋の落橋箇所に近い所に弊社のグループ会社である「阿蘇東急ゴルフクラブ」（以下「ゴルフ場」という。）がある。ゴルフ場もクラブハウスの全損、コースや駐車場には1mを超す段差の地割れが発生するなど大きな被害が発生した。約二年間の閉鎖に追い込まれたが、復旧の過程では地域からの多くの助けをもらい、ようやく平成三十年七月に全面営業再開にこぎつけた。

この営業再開をきっかけに、地元への感謝と地震

阿蘇東急ゴルフ場の被害



1mを超える段差の発生とクラブハウスの全損

からの復興を祈念して何かやろうということで、村とも相談した結果、弊社を含む東急グループ各社で協力して、復興したゴルフ場を会場に、地震発生の日、復興イベント「阿蘇東急でアソぼう♪」を開催することになった。令和元年度に初回を開催し、コロナ禍で開催を見合わせた年もあったが、令和五年までに四回開催している。

イベントでは、ゴルフ場を終日無料で開放し、村の復興状況のパネル展示（国土交通省協力）、警察・消防や自衛隊による防災特殊車両などの展示、ゴルフコースを一般開放し、草スキー、ミニ動物園、ツリーイング※や県出身の元Jリーガーを呼ぶなどのサッカー教室など、家族が終日楽しめる催しを行い、多い年には約四千人が来場した。

※木に吊るしたロープを登る遊び



復興イベント「阿蘇東急でアソぼう♪」

(3) 南阿蘇村と地域農産物の消費拡大に向けた連携協定を締結

イベントを重ねる中で、地震からの復興の歩みを皆で教訓として確認することに加え、地元をより盛り上げていく試みは出来ないかという声も聞こえた。これを踏まえ、令和五年三月、弊社と村で「地域農産物の消費拡大に向けた連携協定」を結び、農業の復興を後押しすることとなった。行政の復興方針に沿う形の活動が一番良いと考え、村との協定締結を選択した。

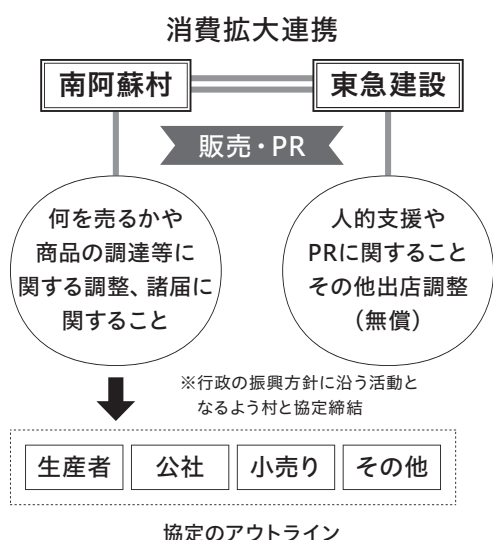
協定は、何をPRし消費拡大に繋げたいかは村の意向が最大限反映させられるような仕組みにしている。それをしっかりと弊社がPRを含めお手伝いしますよという内容である。また、取り組み案件毎に生じる細かな決め事は、別に覚書を結び対応するようにした。

(4) 熊本地震復興イベントで地域農産物を販売

協定の第一段の取り組みとして、前記で紹介した復興イベント「阿蘇東急でアソぼう♪」で、地域で採れる農産物や加工品をPR販売することになった。村と協力して出店した店舗の名は「南阿蘇みなもと」である。

店舗の場所確保、設営、陳列機の設置を主に弊社が行い、販売品の手配、搬入は主に村が行った。商品の陳列や販売は両方で協力して行った。

代表的な農産物を写真に載せている。その中で、春が旬のアスパラガス、冷たく清らかな阿蘇の水で育った小分けした有機食比べ米、おにぎり、村で生産加工されたイチゴのポップコーン



南阿蘇村の主な農産物



PR販売する弊社社員と村の職員



アスパラと小分けした食比べ米



イチゴ味のポップコーンなど加工品の品々

ン、生姜シロップ、味噌などを販売した。加工品の材料はもちろん南阿蘇村産である。

(5) 支援の成果

流行りのキッチンカーの出店がある中で、農産物 を売る店として異色を放ったのか、「アスパラガス」、その場で焼いて提供した「焼きアスパラガス」、南阿蘇産米の「おにぎり」が特に好評で完売した。

阿蘇の大自然を満喫できる中で、村外からの来場所が多いイベントで、地域どれ農産物等を直に見せて販売することで非常に大きなPR効果を上げられたのではないかと、買う人の表情、食べる人の笑顔から手応えを感じた。

終わりに

ミカンの収穫支援については、生産者との交流で得るものが多かった。今も生産者と定期的な情報交換を行っており、今後も支援を継続させる予定である。なお、本年度からは、ミカンの収穫支援に加えて、熊本市のスィカ産地の収穫・出荷の支援も開始した。スイカは重量野菜で、高齢農家には大きな課題となっている。

南阿蘇村の農産物の販売については、会場のゴルフ場が経営譲渡の関係から、令和六年度はイベント自体が開催できず活動が叶わなかった。今、村では農業公社を中心に、耕作されていない農地を特産物のオーナー制に活用するなど、懸命な地域おこしが行われており、協定を活かした効果的な活動を村と相談しているところである。